

経営理念	<p>【教育・保育目標】 すこやか やすのこ げんきなこ 【経営目標】 『乳幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培うこども園』をめざす。 〈子ども像〉 ○自分のことを自分でしようとする子ども ○自分も友達の大切にする子ども ○自分の思いを素直に表現する子ども 〈こども園像〉 ○心も体も元気な子どもが楽しく生活する園 ○基本的な生活習慣を身に付け健康な子どもが育つ園 ○保護者や地域に信頼される園 〈職員像〉 ○子どもとの信頼関係を大切にする職員 ○豊かな人間性と専門性の向上に努める職員 ○互いに認め合い協働する職員</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	○ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情、意欲及び態度を育てる。	① 日々の保育を振り返り記録をもとに評価・反省を行いよりよい保育を実践する。	年間指導計画を基に月案や週日案、個別の記録を作成し、カリキュラム会等で子どもの育ちや課題を共有し季節や発達の時期にあった計画案を作成、評価反省することができた。また、研究テーマを意識したねらいを取り入れながら実践の振り返りを行うことが、子どもの心身の発達を捉えていくことに繋がった。しかし、乳児部と幼児部でカリキュラム会等をそれぞれが行うため細かな打ち合わせが不十分なことがあった。	B	職員数が増えたことで情報共有の難しさはあるが、課題を認識し臨機応変に対応もできている。また、子どもの主体性や発達に応じた体の動きなど成長が感じられ、ねらいをもった教育・保育の実践がされていた。たくさんの行事や記録等作成があるが、職員の業務軽減にも引き続き努めてほしい。	A	引き続き短時間で効率的な話し合いができるような時間設定と工夫、改善をしていく。また、乳児部・幼児部の調整係を設けスムーズな連携ができるようにする。
	② 自己発揮しながら、友達との関わりが深まるような環境を工夫する。	子どもが興味や関心をもっている教材や各年齢の発達に応じて経験させたい教材などを準備することができた。主体的に環境や物に関わって遊ぶ姿や友達との関わりを楽しみながら工夫したり試したりして遊ぶ姿が多く見られた。低年齢のクラスでは担任同士で教材研究を行う機会は増えている。園全体での教材研究や環境の再構成は課題が残った。	B	子どもの成長と発達を促し意欲や楽しさも一緒に育む環境になっていると感じられる。教職員のスキルアップや教材を通して子どもに付けさせたい力を明確にしながら、発達につながるような系統性のある取組はこれからも園全体で継続してほしい。	B	教材研究を通して、発達に応じた興味・関心を促す環境構成について園全体で学び合える場を設けていく。	
	③ 一人一人の子どもの特性や発達に適した援助を行う。	特別支援児においては年間4回のケース会議や事例検討会を行い、一人一人の子どもの特性や発達に適した援助ができるように意見を出し合い考えてきた。子どもの良さや頑張り取組等、好ましい行動を認める関わりができていた。好ましい行動をほめることに目を向けることができた。ようになった教職員が65%以上。担任(パート職員も含む)間では対応や大事にしたい援助のポイントについて共有できた。園の全職員で支援の共有は十分でなかった。	B	会議での話し合いや実践につながる取組がされている。一日を通して時間差での業務のため、特別支援児や気になる園児への情報共有の方法は、関わる職員にはできるだけ周知できるような方法を工夫してください。	B	会議は担当者だけでなく各年齢からの代表者も参加する方法や支援のポイントを回覧するなど共有できるシステムを考えていく。	
職員の育成・資質向上や運営	○ 園務分掌が適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する風通しの良いこども園を構築する。	① 防災対策と安全教育の向上に努める。	運動広場への避難訓練も取り入れ、年間を通して計画に沿った訓練を行うことができたが、避難誘導を意識しすぎ誘導しかできない職員が多かった。訓練回数も延長保育時は1回、早朝保育時はできなかった。初期消火や通報など経験がないままの職員もいた。「園は防災教育や園舎環境などの安全対策に取り組んでいる」と答えた保護者が100%。ヒヤリハットは職員間で共有し事故防止に努めてきた。	C	園小中合同訓練も入れ、年間を通して19回の様々な想定での避難訓練や保護者アンケートでの肯定評価100%は十分評価できる。今回課題に挙げられた経験値を上げることや実践につながる役割について、十分協議し訓練を重ねていただきたい。	B	中学生との交流を続け、力を借りながら運動広場への訓練も継続する。訓練の時間の工夫や想定を増やす等、職員間での協議を深め避難訓練計画等の見直しにもつなげていきたい。
	② 保幼小中の連携の充実に向け、子どもの育ちや学びをつなげる取り組みを充実させる。	正職は中学校区合同職員会に参加し子どもの育ちや学びの連続性を意識して計画や実践に取り組んできた。小学校との交流活動は、お互いのねらいや発達を意識して交流活動をもち事前事後の話し合いができた。しかし、どちらも園内共有が不十分で一部の職員だけの取組になった。接続については事例研究やDVDを使って「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解や必要性について学びを深め、発達を見通した実践に努めた。	C	連携・交流についてはこれまでの非常に良い取り組みや効果があると考えられ、連続性のある学びに取り組んでいる。情報共有については全職員に細かく伝えなくても、共有するべき内容を精査していくと良いと考える。	B	小中学校と隣接ではなくなったがこれまでの連携の取組を継続していく。引き続き中学校までの子どもの実態を知り、育ちに合った関わりをつなげていきたい。共有のための時間確保は、職員会の議題に入れるなどしていく。	
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれたこども園づくりに努め、信頼されるこども園を確立する。	① 保護者や地域に対して積極的に、情報発信を行い、保育の意図や子どもの育ちを共有する。	学級便りやドキュメントで写真を効果的に使用して掲示したり、動画を使った懇談会を実施したりすることで園での様子が伝わった。保護者評価で「お子さんの遊びの姿や成長の姿を分かりやすく伝えている」は98.7%。個人懇談や行事のアンケート等で子どもの成長を喜び伝えてくれる保護者が80%を超えていた。また悩みや困り感を伝えてくれる保護者が増えたり、担任から呼びかけて随時面談することが増加傾向にある。時間確保は引き続きの課題である。	B	園便りを地域に回覧したり、隣接する高齢者施設に新たに配布したりと地域への情報発信に努めている。また、掲示場所を工夫しながら、子どもの良さや育ちつつある姿をとドキュメントと言う形でしっかり伝え、保護者に対しても十分な発信や共有ができていく。職員同士が互いの便りやドキュメントが見える場の設定も良い。	A	情報発信について、保護者がどのように受け止めているか具体的な意見での検証も行い、より分かりやすい発信の仕方を探っていく。面談の時間確保については工夫していく。
	② 保護者と連携し、衛生管理や感染予防に努める。	保護者への情報提供は保健だよりや正門の欠席者情報等で行ってきた。子どもの健康状態について注意深く観察を行うことで体調の変化に早く気づき、看護師に相談して適切な対応に努め、その都度保護者への情報提供や家庭での対応についても知らせていくことができた。日頃から衛生管理を行っているが、特に感染症が増えてきた時には看護師の指導の下しっかりと予防や対策に努めている。	B	看護師が常勤の中、引き続きの取組の成果である。また、マンネリ化しやすい手洗いについてもチェッカーを使って子どもにとって見える化するなど工夫されている。今後も引き続き適切な衛生管理や感染対策をお願いしたい。	A	引き続き感染予防に努めると共に、予防に対して徐々に注意が薄らいでいる家庭もあるので、啓発を継続していく。	

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要